

令和6年度 学校評価〔年度末評価〕（関係者評価記入用紙）

寿都町立寿都小学校

点数：最高4点、最低1点、基準点2.5点

自己評価基準…A:4～3.2 B:3.2～2.5 C:2.5～(ただし～3.2以上でも2点台以下が項目内に入っていればB)

(中間評価)

目標項目	アンケート項目	教職員	児童	保護者	自己評価	各項目に関する状況・改善点など	学校関係者				
						学校から	自己評価の適切さ	改善点の適切さ			
重点目標について	1 子供が自分の目標に向かって挑戦する姿が見られた。	3.6 (3.6)	3.4 (3.5)	3.1 (3.2)	A	学校の重点目標として子どもたちに根付いています。月ごとの学級での挑戦をキーワードとした振り返りも行い、学校全体的に挑戦する雰囲気が出ています。					
確かな学力の育成 指導の個別化と学習の個性化の確立	2 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	3.8 (3.7)	3.7 (3.5)	3.4 (3.6)	3 (3.2)	A	子供たちが主体的に学ぶ姿を各学年で見ることができました。自らの学びを調整していく力も少しずつついてきています。				
	3 全体交流の進め方を工夫することで、子供が協働的に学ぶ姿が見られた。	3.6 (3.3)			3 (3.2)		全体交流の中で子ども達が学びを深められるように工夫をすることができました。ICTを活用した協働的な学びも深化してきています。				
	4 家庭学習への取組を工夫して行い、家庭での学習習慣が定着した。	3.5 (3)		3.3 (3.5)	3.1 (3.1)	3 (3)	A	家庭学習の提示や、それぞれの学年での創意工夫を通して、学習習慣が少しずつ定着してきています。よりよい学習の紹介、ノートへのコメントなどを通して、子ども達の意欲が向上していると思います。今後も、子ども達の意欲高められるようにしながら、「やらされる学習」ではなく、「進んでやる学習」を目指して、継続した指導を続けていきます。			
	5 「がんばりタイム」や「朝学習」でICTや個別のプリントなどを活用するなど、子供が「個別最適な学び」を見つけ、学習する姿が見られた。	3.3 (3.3)	3.5 (3.25)	3.3 (3.5)	2.9 (2.9)	B	B	子供たちが自分に必要な学習を考え、学びを選択できるように関わっていく工夫を重ねてきました。「言われたことをやる」のではなく、「自分で考えてやる」という子ども達の主体性を育てていく指導を全教員が意識しながら、教育活動を進めました。			
	6 ICT機器の使用方法について研修を行うなどして、ICTを活用した教育活動の充実を図った。	3.7 (3.2)						大きく時代が変化する中、我々もICTを活用した教育に挑戦してきました。個の力だけではなく、学校全体で教育力を高めていくよう努めています。			
	7 特別支援教育の充実	3.7 (3.4)				A	A	支援が必要とされる児童に対して、校内では組織的に協議し、方向性を定めていきました。今後も困り感を適切に把握し、家庭・関係機関と連携しながら児童を支えていくようにしていきます。			
	8 児童会での主体的な活動を通して、他者の視点に立つて考え行動するなど、子供同士お互いに認め合う人間関係づくりができた。	3.1 (3.1)		3.5 (3.6)				6年生を中心に4・5年生も主体性を高めてきています。本当に必要な活動を見つめ直す、教師側のアプローチも加えながら、自主活動としての力を伸ばしてきます。			
豊かな心の育成 自己肯定感・人権尊重の向上	9 子供が読書への意欲を高め、読書習慣が定着した。	2.9 (3.3)	3.1 (3.1)	2.3 (2.5)	2.7 (2.85)	B	B	図書環境のリニューアルなどで図書コーナーに足を運ぶ児童が増えてきています。本に親しむ時間・空間づくりに今後も努めていきます。			
	10 丁寧な教育相談や健康相談を行い、児童理解を深め、子供に寄り添うことで、子供が安心して学校生活を送る姿が見られた。	3.8 (3.5)	3.4 (3.4)	3.1 (3.3)				共感的な児童理解を基盤とした、健康相談の定期的な実施が児童の安心感に繋がっていると感じます。			
	11 学級・学校行事等で、子供が主体的に活動できる場を設定し、達成感を味わわせることで、子供の自己肯定感が高まった。	3.8 (3.7)		2.8 (3.2)	3.1 (3.2)			主体的な活動の場の設定やできたことへの充足感を味わう様々な活動を行って来ました。「自分にはよいところがある」の設問について課題が見られます。			
	12 地域によさや文化を知ったり、キャリア教育へつながったりする体験学習を通して、子供の豊かな心が育った。	3.8 (3.7)		3.7 (3.7)	3.2 (3.4)		A	A	地域から褒められ、愛されている子どもたちですので、様々な活動に目を輝かせて取り組むことができました。		
健やかな体の育成 成長や学びを支える生活習慣の確立	13 マラソンカードや縄跳びカードを工夫したり、目標や到達度の見え方を図ったりするなど、子供の体力向上が図られた。	3.5 (3.3)	3.5 (3.6)	3.4 (3.4)	2.95 (3.25)	B	B	粘り強く、継続的に取り組むよさが見えました。熱中症等考慮し、実態と今の時代に合った取組に変革してきます。			
	14 食育や熱中症予防、健康相談等の取組を通して、子供が自ら健康に関心をもち、生活習慣を改善しようとしていた。	3.1 (3.2)	3.3 (3.25)	3.2 (3.3)	2.5 (3)			安定した学校生活を支える食・健康について、専門性の高い学びを進めるとともに子供自らも考えることのできる環境づくりに努めていきます。			
	15 地域と連携した避難訓練や防犯教室、交通安全教室などを実施し、子供が自分事として捉える安全・防災教育に取り組んだ。	3.6 (3.8)			3.1 (2.9)		A	A	外部人材の活用から、詳しく専門的な内容を学ぶことができました。より、実践的で実効性の高い安全・防災教育に取り組んでいきます。		
	16 子供のレジリエンス（失敗から立ち直る力、回復力）の向上が見られた。	3 (2.8)					B	B	レジリエンスは個人差があり、その向上を一律に見取るのは難しい。挑戦を奨励しつつ、その過程を温かく見守り、次へのステップを促す声掛け、関わりをしていきます。		
信頼される学校づくり 温かく活力ある組織づくりの確立	17 教師力・授業力を高めるために、日常の授業実践に生かす研修の充実を図った。	3.8 (3.4)						研修の時間、日常の職員室での会話・交流を通して、最新の教育情報を注視しながら、日常の授業実践に向けた研修を行うことができました。今後も、子ども達の学力向上に向けて、教員間で様々な情報を共有しながら、研修を進めていきます。			
	18 各種通信やホームページ等により、情報を進んで発信し、保護者やCSとときめ細やかに情報を共有することができた。	3.8 (3.4)	3.6 (3.36)		3.3 (3.4)	3.35 (3.5)	A	A	学級通信は、写真なども盛り込み、子供たちの特別活動だけでなく、日常の学びの様子もわかりやすく伝えるよう努めています。HPやブログでの発信も定期的に行っていますので、保護者はじめより多くの方々に見ていただけるようにしていきたいです。		
	19 学校は、地域や学校運営協議会と連携・協働しながら学校を運営している。				3.4 (3.5)			CSコーディネーターの積極的な関わりで、充実した学校運営協議会の場となっています。学校支援ボランティア活動については、子供たちの豊かな体験・経験の場となっており、地域に支えられ、愛されていることを大変、ありがたく思っています。これからも双方向の連携を意識して活動していきます。			
	20 「効率+効果」的な業務改善を図り、組織的な働き方改革を促進した。	3.4 (3.3)						今日的な課題としての学校教育の在り方も踏まえつつ、学校評価などを基盤にPDCAサイクルの中で教職員全体で取り組んで、次年度に繋げていきます。			